

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370700415		
法人名	合資会社 在宅介護サービス たんぽぽ		
事業所名	グループホーム たんぽぽ (第1ユニット)		
所在地	岡山県井原市下稲木町1268-1		
自己評価作成日	平成 25 年 11 月 1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigvosvoCd=3370700415-00&PrefCd=33&VersionCd
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	平成 25 年 11 月 27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ●入居者が、安心・癒し・楽しみながら生活できるように、敷地面積を広くして昔の長屋をイメージした作りをしています。又、食堂や居間・トイレ等、歩いて出ることにより生活リハも活かされるようにしております。 ●同じ事業所内に放課後児童クラブもあるため、子供たちやその保護者とのふれあいもあります。 ●この稲倉地区ならではの季節行事等にも積極的に参加させていただき地域の人々との交流もあります。 ●近くの小学校の授業の一環としてグループホーム内の清掃活動や入居者との触れあう機会もあります。毎年、幼稚園では、運動会や学芸会に招待され幼稚園児と入居者との交流も積極的に行っていただいています。 ●事業所から一歩外へ出るとたんぽぽが一面に広がり、稲を植え、収穫等季節感が味わえることも入居者にとっては刺激になっております。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>自然環境に恵まれた、平屋建てのゆったりとした事業所である。利用者の多くは、段差のない、温度・湿度管理がしっかりとされた、広くて明るい共有空間で一日の大半を過ごしている。建物内には小規模多機能施設や学童保育が併設されており、顔なじみの利用者と事業所内で交流することもできる。また、夕方になると、学童保育の子供たちのにぎやかなかわい声が、広い事業所内を通じて聞こえてくる。子供たちと交流できる時間が、利用者にとって楽しみの一つとなっている。</p> <p>身体的機能が低下しても、入浴できる特浴設備がある。利用者の状態に合わせて対応しているが、利用者の希望を一番に踏まえ、対応している。事業所内での生活に利用者本人、家族共に安心感をもっている。</p> <p>管理者は、特別扱いしない介護を目指しており、各利用者の状況や得意・不得意、好き・嫌いを把握し、個々に合わせた生活が出来るよう、職員や家族に協力を得ながら実践に向け取り組んでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果(第1ユニット)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	他の施設には無い圧倒的なアットホーム感がたんぼぼの魅力と考える。利用者はもちろんのこと職員までもが、自分の家の様に生活する事を目指している。理念である「私たちは、自分の親を見てもらいたい施設を目指します」を職員一人一人が共有できるように努めている。	各ユニットの共有スペースに掲示している。来訪者に見てもらおう事で、職員への戒めとなり、緊張感を保ちながら実践している。また、家族の前で堂々と理念通り実践できていると言えるよう、職員への周知徹底を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学生の清掃ボランティアや見学交流訪問、招かれて授業の一環として組み込まれる「たんぼぼ福祉学習」等は併設の学童施設との合同企画を通しての地域交流であり、たんぼぼの特色となっている。	学童の児童と一緒に、年末に大掃除をしたり、そうめん流しをしたり、学童保育の保護者と日頃から交流している。また、利用者と一緒に地域のゴミ拾いにも参加している。近隣小学校の授業の一環として、現場体験を実践している。地域の夏祭りには、地元の消防団が鬼に扮して来訪してくれたり、子供神輿が立ち寄ってくれる。地域の方に向けた見学会を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所増設により、グループホーム・小規模多機能の存在やどんな事業所なのかが、地域の人に知られるようになった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	複数の地区自治会長・家族・小学校長・主任児童委員・学童保育役員、市町村担当者・地域包括の職員等が出席して、定期的に運営推進会議を行っている。時にはたんぼぼ行事と同時開催する等工夫して、より深くたんぼぼを理解してもらえよう働き掛けている。	定期的に開催されている。市町村担当者の出席率は100%である。地域行事に関わりたいという思いを伝えたり、学童保育との交流の様子を話している。小学校の校長等も参加しており、学校行事を伝えてくれたり、市担当者から地域の行事等について話している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	何かあればその都度市の担当者に相談し、指導・助言を受けている。運営推進会議出席を依頼し、必要に応じてオブザーバーとして出席してもらっている。市の要望で学童保育を取り入れ、災害時避難場として受け入れ申請する等、協力関係ができている。	市担当者とは制度について議論したり、運営推進会議で意見や要望を話し合ったりしながら、良好な関係を築いている。市からの要請で、災害時の避難場所として指定されている。	井原市とは密に連携が図れているので、避難場所として指定されている事について、具体的な方法を話し合う機会を持ってみたいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	言葉による拘束や、安全を基本に身体拘束をしない支援等についての具体的なマニュアルを作って、職員に周知徹底を図っている。ケアの中での気付きはその都度話し合い、認識を共有している。	現在、身体拘束の対象となる利用者はいない。身体拘束マニュアルを作成しており、現場で起こったヒヤリハットを軸に、月一回のミーティングの中で話合っている。また、主任を中心に拘束について内部勉強会を行っている。外部の講習会に参加させることも必要だと感じており、今後の課題である。	身体拘束について、内部では勉強会を行っているが、外部の研修会に行く機会が取れていない。視野を広げるためにも、今後の取り組みに期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待という言葉は範囲が広く言葉や暴力、介護拒否等さまざまな虐待があるため、月に一回のミーティングで話し合いができるように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度を活用された入居者の家族もいる為、会議等で話せる機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営規程・重要事項は、見学に来られた際に説明を行うように努力している。規程内容を全て理解していただくのは難しいが、必要な事項について十分に説明していくように心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の様子を伝える個別報告書を毎月家族に送り、忘年会や日帰り旅行等家族参加行事も企画して、情報提供・家族同士の交流を促進している。運営推進会議に家族も出席しているので、公の発言の場も提供出来ている。	「家族では出来ない事をやってほしい」と言われる事が多い。誕生日をきっかけに帰宅した際には、「見たことのない笑顔が見られた」と家族から報告があった。担当職員から行事や室内の写真を家族に送ったり、利用者の様子を知らせたりしている。ホーム内での忘年会に家族の参加を促している。	家族の協力もあり、外出や外泊支援が積極的に行われている。家族関係を良好に保つために、今後も継続して取り組んでいただきたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングにて運営や職員の意見や提案について職員全員で理解できるように話し合いを行っている。	月1回のミーティングの中で、職員から意見や要望を聞き出している。半年に1回行う個人面談の中で1人ひとりの職員から思いを聞いている。以前は、利用者のケアについて担当職員が一人で考え、対応することが多かったが、ミーティングの中で話し合えるようになり、成果も出ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に1回のミーティングにおいて、職員の気持ち等、出来る限り聴ける場を設けて改善できることはすぐに改善している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営会議を月1回設け話し合う機会を多く持つようにしている。また、GHでは、代表者、管理者、計画作成担当者、職員代表と問題や伝達事項があれば随時、話し合う機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他県及び県内のGHとの交流等積極的に話しができる環境を構築している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ミーティングにて、入居者の要望や不安等職員全員で話せる機会を設けており安心して生活できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	随時、家族と連絡及び面会時に話しを行うように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人の気持ちを第一に考え、サービス導入時やそれ以降のサービス変更時においても面会時等に話し合いを行い、その人らしい生活や生きがいを見つけて支援できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	冗談を言い合ったり、たまにはけんかをしたりと、職員の悩み事を入居者に相談したりと家族のような関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎年、家族を含めた忘年会や旅行を行ったり、お盆や年末年始は家族と過ごせるように働きかけている。GHだけの生活ではなく家族との時間も大切にしていけたらと考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者・職員共に過半数が地元出身者なので、互いに地域の屋号で話を通じる。地元の夏祭りの踊りに利用者と一緒に参加したり、本人が行った事のある神社に個別の初詣をする等、昔からの馴染みを大切に支援を心掛けている。	地域の屋号を用いて会話ができるので、利用者同士・家族同士のつながりは深い。近所の友人が家族と一緒に来訪するケースも多い。また、職員支援によるお墓参りや一時帰宅、外泊等、家族とも連携しながら、前向きに行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の会話に職員も加わり、楽しく過ごせるよう支援している。入居者同士がけんかになった場合は職員が間に入り、和解できるよう支援している。GHと小規模の利用者交流も多くある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、担当職員やケアマネ等より現状報告を確認し、出来る限り関係は大切にしていこうと努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや暮らし方は個々に違うためそれを尊重していくようしている。困難な場合は、本人の表情や行動を観察しながらその場に応じて対応している。	買い物に行きたい、パーマをかけたい等、日常の中で利用者の思いや希望を聞き、叶えられるよう心掛けている。また、利用者が言いたくても言えない事を表情やしぐさ等から汲み取り、その人らしさを大切に、役割を持って生活してもらえるように工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来る限り情報提供を多く収集して理解し把握に努めている。居室には、本人の馴染みのある筆筒や写真が飾られている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録表や日報、申し送りにより一人一人の状態の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族から計画作成担当者と担当職員が良く話を聞いて、情報を全職員に伝えてプランを作成し、全員で様子を見ながら検討している。何かあればその都度、定期的には半年に一度プランを見直し、現状に即して検証している。	計画作成担当者が中心となり、アセスメント、介護計画を作成している。担当職員から日頃の気づきや問題点を聞き、反映している。日常生活に何らかの変化があれば、その都度、家族に連絡している。利用者や家族からの意見や要望は少ない。医療面においては、協力医療機関や看護師等に相談している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員だけでなく、誰が見ても分かりやすい記録を作成し職員全体で把握・共有できている。業務日報に必要な記録や職員全体に伝えたいことを記入するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々、GHでの生活は変化するため柔軟に対応できるようにしている。天気が良ければ散歩したりドライブをしたりとその日の状況に合わせた対応を出来る限りしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	GHと小規模と放課後児童クラブがあり、子供たちの遊ぶ声や走り回る姿を見ることで心身的に落ち着かれる場合もある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は原則として家族にお願いしているが、家族が困難な場合はホームでも支援しており、2週間に一度主治医の往診もあるので、それぞれのかかりつけ医との関係は構築できている。歯科や内科等、ホームの協力医も確保できている。	利用者の希望するかかりつけ医への受診を基本としている。原則、家族にお任せしているが、場合によっては職員が対応している。協力医療機関による往診も2週間に1度行われている。協力医療機関は認知症への理解も深く、入院にも対応しており、家族の要望にも柔軟に対応している。年1回、歯科協会による口腔ケアの勉強会を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医師と連絡をとり、入居者の日々の状態を把握し、体調の変化にすぐ気づき適切な対応ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関だけでなく、地域の病院その他、かかりつけの病院との連携を積極的に行えるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族・往診に来てくれる主治医と、ターミナルに向けた話し合いをして、スムーズに対応できた事例をもある。本人・家族の強い希望があり、医療的な問題もなく、医師や家族の協力を得られるならば、職員とも良く話し合っ、ホームとして出来る限りの支援をしたいと考えている。	終末期ケアの実績はある。利用開始時には、終末期に向けた方針を家族に伝えている。医療面での支援や家族の協力が必要なので、十分な話し合いを持ち、出来る限り、事業所で見守りながら、職員一丸となって取り組んでいきたいと考えている。	終末期ケアにおいて職員の不安を取り除いた上で本人や家族の希望に応えたいという思いが感じられる。勉強会や研修会への参加も考えていることも伺った。今後、その実践に向けて計画的に取り組んでもらいたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを作成して周知徹底を行っている。応急処置や手当等についてはすぐに読むことができるように決められた場所に保管しいつでも見れるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年度ごとに、消防訓練計画書を作成し、マニュアルも作成している。最低、年2回は消防訓練を実施できるように努める。	年2回、昼夜を想定した避難訓練を行っている。また、年1回消防署の立ち会いがあり、助言を貰っている。地元消防団に入っている職員がいるので、連絡・連携もスムーズに出来ている。事業所(建物)は耐震構造であり、スプリンクラーの設置も行われている。	災害時における訓練や非常食の配備にも取り組むことに期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティングにて、言葉掛けやケアの対応について話し合いを行っている。ケアマニュアルを作成している。	月1回のミーティングの中で、利用者に対しての声かけや対応について話し合っている。事業所独自のケアマニュアルを作成しており、それを基に、出来ていない時には職員がお互いに注意し合いながら、利用者を敬い、対応するように心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り本人の訴えや思いを言える環境を模索していくようにする。家族の方にも支援していただけるように相談や話し合いも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護計画をミーティングにて全職員に伝達すると共にその人らしい生活が送れるように支援できるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさを重視し身だしなみやおしゃれが常にできるように心がけています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人の状態に合わせミキサー食等、食べやすいよう配慮し、介助の必要な人の傍には職員が付いて、皆で談笑しながら食事している。食事班の職員を配して、旬の食材を活かした美味しい食事提供に努め、食事は皆の楽しみになっている。	食材や献立は業者に委託しているが、調理は事業所内で行っている。季節の食材を取り入れたり、バイキングしたり、外食に行ったり、誕生日には家族も参加しながら、楽しく職員も一緒に食事をしている。食後にはお皿を拭くなど自分の出来る事を手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの食事状況を把握し、栄養やバランス・水分量が確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後、歯磨きのできる方には声かけを行い困難な方には口腔ケアを行い、義歯についても清潔な状態で使用できるようにして、常に口腔内を清潔に保持できるよう努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各自の排泄チェック表で、排泄パターンを把握し、タイミングを見て声を掛け、トイレ誘導していた。失禁が減ったり、パット使用の人が、無くても大丈夫になる等、改善事例も多い。	排泄チェック表を使い、日中はトイレで排泄できるよう誘導している。夜間はポータブルトイレやパット交換で対応している。出来るだけパットやオシメの使用頻度を減らし、金銭的な負担を軽減できるよう取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の調整・ヨーグルトやバナナジュース等食事にも工夫して自然排便できるように努め水分補給についてもイオンゼリー等を活用し水分を摂取できるように工夫を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は事故が多く、入居者の方も緊張しながら入浴されるため言葉掛けや誘導を重視する。また、全身観察にも努めるようにしている。職員と入居者が唯一話しをゆっくり聴ける場なので大切にしている。	週3回の入浴を基本とし、利用者の希望に合わせて、自立浴・介護浴・特浴に分けて支援している。毎日入浴したい利用者にも対応しており、マンツーマンでの入浴介助に取り組んでいる。入浴を楽しんでもらうために、入浴剤を活用することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来る限り日中は、起きていただくように軽作業等していただいて、夜ぐっすり眠れるようにしている。入居者より休みたいとの希望があれば居室へ誘導している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の服薬管理は、一人ひとりの職員が把握できるようにし、臨時処方等は記入し全職員が分かるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換については、ドライブや散歩等を行っている。また、折り鶴作りや季節の壁画を作ったり、食事の準備や洗濯物干し、洗濯物たたみを一人ひとりの力に応じてできるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族にも協力していただきながら、出来る限り出掛けるようにしている。(買い物・ドライブ・実家等)年1回の旅行も家族の協力を得ながら行っている。	利用者本人が行きたいところへ、外出できるよう心掛けている。花見や紅葉狩りなど季節の外出行事や道の駅(笠岡ベイファーム)へドライブにも出かけている。家族の協力のもと、貸切バスで家族と一緒に年1回の旅行も企画している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持ちたいとの訴えがある方には家族の方と相談の上、できるだけ金銭管理を支援しています。(家族の方には、紛失等が考える為、了解していただいています。)買い物も職員付添のもと行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやりとりは、出来る限り支援している。(家族が、負担にならないように相談をしながら)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	とにかく広い、GH・小規模・学童が直線の平屋で綱がっている為、ドア窓を開けると心地よい風が建物全体を通して行く。壁には入居者と作った季節の壁紙を貼って飾りつけをしたり、季節の花を入居者に生けて貰っている。	平屋造りの広々とした空間が広がり、開放感に溢れている。南向きに大きな窓もあり、日中温かく、風通しも良い。廊下も広く、明るいので車椅子の利用者も安心して共有空間でくつろいでいる。空気清浄器を設置し、温度・湿度管理にも力を入れている。壁には季節を感じさせる利用者手作りの作品が飾ってある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った同士で席が決まっており、一人になりたいときは、居室に戻られたりして調整しながらストレスがないように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時になるべく馴染みのある筆筒や鏡台等を持参していただくと共に、自分の部屋だと分かるように出入口付近へ写真を飾っている。居室のレイアウトはできる限り家族へお願いをしている。	自宅から持ってきた馴染みの物を、利用者の生活スタイルに合わせて配置している。ベッドは備え付けだが、ベットが苦手な人には畳敷き+布団に変えることもできる。壁には家族の写真が飾られ、利用者にとって居心地良い空間作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活の中にリハビリをという考えをしており、広いパブリックスペースでゆったりとした動きがとれるようにしている。お風呂について、入口と出口を設けて待つことのないようにしていくと共に清潔と不潔を区別している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370700415		
法人名	合資会社 在宅介護サービス たんぽぽ		
事業所名	グループホーム たんぽぽ (第2ユニット)		
所在地	岡山県井原市下稲木町1268-1		
自己評価作成日	平成 25 年 11 月 1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigvoCd=3370700415-00&PrefCd=33&VersionCd=
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成 25 年 11 月 27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果(第2ユニット)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	他の施設には無い圧倒的なアットホーム感がたんぼぼの魅力と考える。利用者はもちろんのこと職員までもが、自分の家の様に生活する事を目指している。理念である「私たちは、自分の親を見てもらいたい施設を目指します」を職員一人一人が共有できるように努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小学生の清掃ボランティアや見学交流尉問、招かれて授業の一環として組み込まれる「たんぼぼ福祉学習」等は併設の学童施設との合同企画を通しての地域交流であり、たんぼぼの特色となっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所増設により、グループホーム・小規模多機能の存在やどんな事業所なのかが、地域の人に知られるようになった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	複数の地区自治会長・家族・小学校長・主任児童委員・学童保育役員、市町村担当者・地域包括の職員等が出席して、定期的に運営推進会議を行っている。時にはたんぼぼ行事と同時開催する等工夫して、より深くたんぼぼを理解してもらえよう働き掛けている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何かあればその都度市の担当者に相談し、指導・助言を受けている。運営推進会議出席を依頼し、必要に応じてオブザーバーとして出席してもらっている。市の要望で学童保育を取り入れ、災害時避難場として受け入れ申請する等、協力関係ができています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	言葉による拘束や、安全を基本に身体拘束をしない支援等についての具体的なマニュアルを作って、職員に周知徹底を図っている。ケアの中での気付きはその都度話し合い、認識を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待という言葉は範囲が広く言葉や暴力、介護拒否等さまざまな虐待があるため、月に一回のミーティングで話し合いができるように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度を活用された入居者の家族もいる為、会議等で話せる機会がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営規程・重要事項は、見学に来られた際に説明を行うように努力している。規程内容を全て理解していただくのは難しいが、必要な事項について十分に説明していくように心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の様子を伝える個別報告書を毎月家族に送り、忘年会や日帰り旅行等家族参加行事も企画して、情報提供・家族同士の交流を促進している。運営推進会議に家族も出席しているので、公の発言の場も提供出来ている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングにて運営や職員の意見や提案について職員全員で理解できるように話し合いを行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に1回のミーティングにおいて、職員の気持ち等、出来る限り聴ける場を設けて改善できることはすぐに改善している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営会議を月1回設け話し合う機会を多く持つようにしている。また、GHでは、代表者、管理者、計画作成担当者、職員代表と問題や伝達事項があれば随時、話し合う機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他県及び県内のGHとの交流等積極的に話しができる環境を構築している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ミーティングにて、入居者の要望や不安等職員全員で話せる機会を設けており安心して生活できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	随時、家族と連絡及び面会時に話しを行うように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族や本人の気持ちを第一に考え、サービス導入時やそれ以降のサービス変更時においても面会時等に話し合いを行い、その人らしい生活や生きがいを見つけて支援できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	冗談を言い合ったり、たまにはけんかをしたり、職員の悩み事を入居者に相談したりと家族のような関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎年、家族を含めた忘年会や旅行を行ったり、お盆や年末年始は家族と過ごせるように働きかけている。GHだけの生活ではなく家族との時間も大切にしていけたらと考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者・職員共に過半数が地元出身者なので、互いに地域の屋号で話を通じる。地元の夏祭りの踊りに利用者と一緒に参加したり、本人が行った事のある神社に個別の初詣をする等、昔からの馴染みを大切にした支援を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の会話に職員も加わり、楽しく過ごせるよう支援している。入居者同士がけんかになった場合は職員が間に入り、和解できるよう支援している。GHと小規模の利用者交流も多くある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、担当職員やケアマネ等より現状報告を確認し、出来る限り関係は大切にしていこうと努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや暮らし方は個々に違うためそれを尊重していくようしている。困難な場合は、本人の表情や行動を観察しながらその場に応じて対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来る限り情報提供を多く収集して理解し把握に努めている。居室には、本人の馴染みのある筆筒や写真が飾られている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活記録表や日報、申し送りにより一人一人の状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族から計画作成担当者と担当職員が良く話を聞いて、情報を全職員に伝えてプランを作成し、全員で様子を見ながら検討している。何かあればその都度、定期的には半年に一度プランを見直し、現状に即して検証している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員だけでなく、誰が見ても分かりやすい記録を作成し職員全体で把握・共有できるようにしている。業務日報に必要な記録や職員全体に伝えたいことを記入するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々、GHでの生活は変化するため柔軟に対応できるようにしている。天気が良ければ散歩したりドライブをしたりとその日の状況に合わせた対応を出来る限りしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	GHと小規模と放課後児童クラブがあり、子供たちの遊ぶ声や走り回る姿を見ることで心身的に落ち着かれる場合もある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は原則として家族にお願いしているが、家族が困難な場合はホームでも支援しており、2週間に一度主治医の往診もあるので、それぞれのかかりつけ医との関係は構築できている。歯科や内科等、ホームの協力医も確保できている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本人のかかりつけ医師と連絡をとり、入居者の日々の状態を把握し、体調の変化にすぐ気づき適切な対応ができるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	協力医療機関だけでなく、地域の病院その他、かかりつけの病院との連携を積極的に行えるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族・往診に来てくれる主治医と、ターミナルに向けた話し合いをして、スムーズに対応できた事例をもある。本人・家族の強い希望があり、医療的な問題もなく、医師や家族の協力を得られるならば、職員とも良く話し合っ、ホームとして出来る限りの支援をしたいと考えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを作成して周知徹底を行っている。応急処置や手当等についてはすぐに読むことができるように決められた場所に保管いつでも見れるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年度ごとに、消防訓練計画書を作成し、マニュアルも作成している。最低、年2回は消防訓練を実施できるように努める。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティングにて、言葉掛けやケアの対応について話し合いを行っている。ケアマニュアルを作成している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り本人の訴えや思いを言える環境を模索していくようにする。家族の方にも支援していただけるように相談や話し合いもやっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介護計画をミーティングにて全職員に伝達すると共にその人らしい生活が送れるように支援できるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさを重視し身だしなみやおしゃれが常にできるように心がけています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人の状態に合わせてミキサー食等、食べやすいよう配慮し、介助の必要な人の傍らには職員が付いて、皆で談笑しながら食事している。食事班の職員を配して、旬の食材を活かした美味しい食事提供に努め、食事は皆の楽しみになっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの食事状況を把握し、栄養やバランス・水分量が確保できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後、歯磨きのできる方には声かけを行い、困難な方には口腔ケアを行い、義歯についても清潔な状態で使用できるようにして、常に口腔内を清潔に保持できるよう努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各自の排泄チェック表で、排泄パターンを把握し、タイミングを見て声を掛け、トイレ誘導していた。失禁が減ったり、パット使用の人が、無くて大丈夫になる等、改善事例も多い。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の調整・ヨーグルトやバナナジュース等食事にも工夫して自然排便できるように努め水分補給についてもイオンゼリー等を活用し水分を摂取できるように工夫を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は事故が多く、入居者の方も緊張しながら入浴されるため言葉掛けや誘導を重視する。また、全身観察にも努めるようにしている。職員と入居者が唯一話しをゆっくり聴ける場なので大切にしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来る限り日中は、起きていただくように軽作業等していただき、夜ぐっすり眠れるようにしている。入居者より休みたいとの希望があれば居室へ誘導している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の服薬管理は、一人ひとりの職員が把握できるようにし、臨時処方等は記入し全職員が分かるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換については、ドライブや散歩等を行っている。また、折り鶴作りや季節の壁画を作ったり、食事の準備や洗濯物干し、洗濯物たたみを一人ひとりの力に応じてできるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族にも協力していただきながら、出来る限り出掛けるようにしている。(買い物・ドライブ・実家等)年1回の旅行も家族の協力を得ながら行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持ちたいとの訴えがある方には家族の方と相談の上、できるだけ金銭管理を支援しています。(家族の方には、紛失等が考える為、了解していただいています。)買い物も職員付添のもと行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやりとりは、出来る限り支援している。(家族が、負担にならないように相談をしながら)		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	とにかく広い、GH・小規模・学童が直線の平屋で綱がっている為、ドア窓を開けると心地よい風が建物全体を通って行く。壁には入居者と作った季節の壁紙を貼って飾りつけをしたり、季節の花を入居者に生けて貰っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った同士で席が決まっており、一人になりたいときは、居室に戻られたりして調整しながらストレスがないように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時になるべく馴染みのある筆筒や鏡台等を持参していただくと共に、自分の部屋だと分かるように出入口付近へ写真を飾っている。居室のレイアウトは出来る限り家族へお願いをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活の中にリハビリをという考えをしており、広いパブリックスペースでゆったりとした動きがとれるようにしている。お風呂について、入口と出口を設けて待つことのないようにしていくと共に清潔と不潔を区別している。		